

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」 <別館>		
所在地	大分県大分市ふじが丘南一丁目16番10号		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の状態や状況を考慮し、皆が楽しめるように工夫し行事・外出支援を行っている。
・中庭にテラスがあり、容易に外気浴ができる。
・梶本医院が併設している事から急変時や、日々の体調について相談・報告できている。

・職員間の危機管理が出来ており、コロナ感染者が一人も出ていないとの成果がある
・併設の医院との連携が取れており、24時間安心感がある。
・行動制限が多い中でも、近所への散歩や馴染みの場所へのドライブなど可能性を見つけて外出支援に取り組んでいる。
・管理者、職員間のコミュニケーションがよく取れており、チームワークがよい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	1/9 評価機関：福祉サービス評価センターおおいた			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を唱和し共有を図り、1人1人が意識して業務に取り組めるようにしている	玄関とホールに掲示し、朝礼時に全員で唱和している。日々の関わりの中で実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周りの掃除、入居者との散歩、地域自治会の災害訓練に参加し地域の一員として環境形成し顔なじみの環境が築ける様に意識し業務に取り組んでいる	自治会に加入し、自治会の災害訓練で車いすの使い方など説明したり、施設周りの清掃や散歩途中でのあいさつなど地域とのかかわりを大切にしている。コープ祭りに利用者と一緒に参加し交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の災害訓練参加し福祉用具の使い方や注意点、施設の紹介等を行う。運営推進会議では事例を紹介し認知症への理解を深めて頂ける様にしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加職員を限定せず、みんなで作る会議を目指し、会議では状況等について報告を行い、出た意見について参加できなかった職員へ申し送り、課題解決・サービス向上出来る様取り組んでいる	運営推進委員に、自治会や交番の警察官、大学の先生など12名ほど参加している。取り組み状況を報告し、意見交換している。また、状態に応じた例を考え話し合う機会を設けるなど工夫し、出された意見は職員で検討しサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明・不安・疑問がある際には、電話や往訪し解決に向け取り組んでいる。運営推進会議で実情や取り組みについて報告を行っている	運営推進会議で実情や取り組みを報告し、ほかに不明なことや疑問があるときは、電話や訪問して、アドバイス等をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム入職時に研修を実施すると共に、常に入居者の状態を共有・把握し支援の方法を考慮していく事で拘束しないケアに取り組んでいる。又運営推進会議開催時、現況について報告を行っている	法人内での研修会が年3～4回あり、身体拘束について職員全員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間にセンサーマットは使用せず、室内の物音で感じ取り様子を见に行くなどの対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に新入職員に対し入職時研修や法人内研修において学ぶ機会がある。職員1人1人が虐待について、正しい知識を持てるようにし虐待が見逃されないようスタッフ全員が話しやすい環境を作れるように心がけている			

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」 別館

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修や個別の研修で権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームスタッフ・管理者だけでなく、理事長・関わる職員も含め不安や疑問な事に対して話し合いの場を持つ様にしている。契約締結・解約の時には管理者・その日のリーダーが同席している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、面会時や様子を報告し状態の共有している。変化が生じた際にもその都度、家族へ連絡し要望や意見を聞き反映出来る様にしてしている	面会時に意見や要望を伺い、出された意見等は職員で共有し対応している。また、日々の様子を写真に残し家族に見てもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、会議等でスタッフ1人1人から意見を話せる場を提供している。それでも、話す事が難しい時には個別に管理者と話が出来る様な場を設けている	朝礼や会議時、また個別に提案や意見を聞く機会を設けている。外出支援の取り組みで企画書が通り初詣でに出かけた。働き方でもシフト変更し、継続して働けるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や得意な事に応じて、やりがいや責任の持てる仕事の振り分け・可能な限り休み希望の反映・話をしやすい環境が作れるように心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を把握し、能力・スキルアップでできる様積極的な研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	数年コロナ禍により同業者による訪問等の活動は無いが、職員が研修参加した時には交流や関係作りの重要性を伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いに向き合い、安心して生活が送れる様、要望等に耳を傾けその思いに向け職員が統一したケアを行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報・状態・状況を家族・多職種と共有し、不安や要望をくみ取り、信頼関係を築いていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や環境の変化に対応しながらスタッフ間・多職種で話し合い必要に応じて本人や家族とも話し合いを行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	”その人らしく”生活を送るために、支援を考え共に暮らす者同士として落ち着ける環境を提供できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取り合い情報を共有しながら支援について共に話し合える環境を作っている。昨年より、面会も再開し話の機会も多くなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限されていた行事や外出、面会が徐々に制限緩和によりコロナ禍前の様にできる様に努めている	外出や面会の制限が少しずつ緩和され、なじみの理美容院を利用したり、婦人会活動をしていた時の知人が面会に見えるなど馴染みの人や場とのつながりが途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性や状態、状況を把握・理解しその人らしい生活を支援し、その中で本人の得意な事を活かし孤立しない様支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用時と同様の関係を続けていける様、努めている。また、入院中は面会し様子を見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望、意思を確認し本人本位の生活が送れるように支援している。職員同士の情報を収集し思いや意向に沿った支援に努める	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。歌が好きな利用者に自室で聴けるように工夫したところ、穏やかに過ごすようになったなど、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を元に、家族や周りの人からの聞きこみや、本人がどのような暮らしを望んでいるのかを把握し、それに少しでも近づく様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や、表情、会話でその方の様子を知り必要なことを提供できる様情報を共有している。ご本人の思いを尊重するように考える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き取り、話し合いにより介護計画に反映している。日々の記録や状態にて確認、評価を行い、本人・家族・多職種からの意見等を元に見直しを行っている。	本人や家族の意向を聞き、ケア会議で毎月のモニタリング結果や個別記録などをもとに話し合い、それぞれの意見や本人・家族の思いを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録し申し送りに記録、情報の共有。個別記録をもとに介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて外部受診、馴染みの理美容利用など、徐々に再開している。また、訪問歯科の受け入れ等も実施している。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」 別館

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し必要に応じて家族等に依頼・協力を仰ぎ活用出来る様にしている。運営推進会議に、地域の警察、包括、自治会長、老人会代表に参加してもらい意見を交換してる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態を報告や家族からの訴えを、主治医と相談ができる環境を構築し、必要に応じて外部受診を家族に依頼し適切な治療が受けられるよう様にしている。	希望するかかりつけ医を受診できる。ほとんどの人が、母体の医院を希望し、月2回の訪問診療を受けている。外部受診は家族が対応しており、適切な治療が受けられるよう支援している。訪問歯科を受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護がコールですぐに駆けつけてくれる環境にあるので、日々の小さな事でも報告し、介護側では対応が難しい事でも看護にて対応できる様に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供し面会に行くようにしている。家族にも、状態報告連絡し退院支援にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近い利用者を一番目の届きやすい居室に移し、小さな変化にも気づける様に取り組んでいる。	入所時に重度化や終末期の方針につて、説明している。看取りができる体制があり、状態の変化に伴いドクター、家族と方向性を話し合っている。事業所のできることを十分に説明しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応の仕方や応急処置の仕方を職員同士で話し合い訓練等を行う事で新人の職員でも慌てず対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や地域防災訓練に通じて施設の紹介を行い協力を仰いでいる。又、法人全体での勉強会やグループホーム独自で避難訓練を実施し災害時の避難方法を共有・検討出来る様にしている	法人の勉強会で災害避難時の協力体制ができています。またグループホーム独自の避難訓練を行い、避難方法の課題を話し合っている。地域防災訓練に参加し、防災時の協力をお願いしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で常に意識し不適切な言葉、対応はその都度職員間で注意しあうようにしている。一人一人を大切に思い尊重し寄り添いながら、必要なことをさりげなく支援している。	法人で月1回接遇委員会が開催されている。日頃から人生の先輩として敬い支援するように務めているが、不適切な言葉かけや対応に気づいたときはその都度、職員間で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情、発言、行動より読み取り、職員がその自己決定に沿った支援が出来るよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状況を考慮し、出来る限り自立支援を促しながらその方のペースで生活出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、自分で選んでもらう様に声掛け支援を行い、訪問理由には希望時に申し込みを行っている。又、行きつけの美容室がある時は、家族に依頼している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	席の位置・形態や摂取量など、観察し1人1人の状態に合わせて自力摂取を促す事で楽しみながら摂取できる環境を提供している。	母体の厨房から昼・夕食が届いたものを利用者の食事形態に合わせて提供し、一人一人の力を生かしながら食べる喜びの支援に取り組んでいる。朝は、事業所で作っており、匂いで起きてくる人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回以上は体重測定を行い体重の評価や、食事・水分摂取量は常時記録し、主治医、栄養士と相談しながら支援に取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に歯磨きを行い、状態に合わせて必要に応じて口腔ケア道具を家族にしに物品を揃えたり歯科受診を依頼している。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」 別館

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表を記入する事により、スタッフ間で情報共有が出来やすくなり、パッドの種類や交換時間を検討する事で、不快感や負担軽減につなげている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。自室のトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援をしている。また、パッドの種類や交換時間など工夫しながら、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動として毎日の体操や廊下歩行可能な方にはトイレに誘導する事で排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の希望やタイミングに合わせ無理せず入浴できる様声掛けを行い、拒否がある時には柔軟に日にちや時間をずらす等の対応を行っている	週2回入浴。一人ひとりの希望やタイミングで、気持ちよく入浴できるよう工夫しながら声掛けをしている。状況によって入浴できない時は清拭をしているが、現在はほとんどの方が入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日々の状態に合わせ臥床・休息を促す事や、個々の就寝パターンに合わせ就寝支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情や申し送りノートを用いて、目的や副作用について情報収集を行い症状の変化を見逃さないよう努め主治医に相談・報告出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族より得意な事や生活歴を聞き取り、本人からの要望や職員の声掛けを行い活気ある生活が送れるように支援に努める		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の健康状態を考慮し、無理なく出かける事が出来る様に支援している。	近くに散歩に出かけたり、コープへ買い物など希望を聞き出かけている。季節ごとに桜やコスモスなど体調を見ながらドライブに出かけることを楽しみにしている。外出が難しい方は外気浴をするなどの外出支援をしている。	

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」 別館

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物の支払いをしてもらったり、パンやジュースの購入を支援している。財布にお金が入っていないと心配になる方は家族に連絡、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を出したり、希望に応じて本人・家族との電話のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動線を考え歩行や移動の妨げにならないような配置、また、季節にあった適温、日当たり、景観など考慮して席を決めている。	玄関やホールには季節の花が飾られている。ホールは広くテーブルやいすの配置に工夫が見られ、ゆったりと過ごさせている。畳のスペースには雛人形や作品が飾られ、窓際に椅子を置き、外の景色を眺めながら過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い共用空間の確保、安心して過ごせる個々の居場所の確保を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を配置し、自宅の延長線上にあるような居室空間を作っている。	馴染みの家具や小物などを持参し、動線を考えた配置になっている。また、その人らしさが伺える部屋作りで、安心と居心地の良い工夫がされている。各部屋にトイレがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の歩行状態や車いす等の身体状況・自立や介護状況・心理状況に合わせ安全に安心して過ごせるよう居室の配置やホールの座席を考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」＜本館＞		
所在地	大分県大分市ふじが丘南一丁目16番10号		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナウィルス感染症が5類になったことではあるものの依然として感染のリスクが多いため面会の時間制限や面会時の予約等で感染対策を考えながらのクラスターになることなく今に至っている。その中でも外出、季節の行事に取り組み利用者第一の支援を続けている。
・医院との併設にて急変時の相談報告受診対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」<別館>】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念の中に地域とのつながりを掲げ申し送り時に全員で唱和し常に意識し共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ5類になることにより近場のグリーンコープ等のおまつりに出かけて行き交流し努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の参加者を通じての認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催がコロナ前に戻るも感染対策を考えながら開催し状況報告を行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡報告等にて協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修又は新人研修に対して研修等で振り返りの時間を持ち職員全員で正しく理解をし取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に十分に理解をし日常生活の中で虐待につながる言動、行動がないように職員間で注意をし防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在に対象者がいないが発生した場合には法人の全体会議等にて学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に限らず改定等の際は家族への十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先への意見箱の設置、訪問時や電話連絡などに何でも話してもらえるように対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りやGH会議に限らず常にコミュニケーションを図り意見や提案を受け入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体でストレスチェックを受け相談しやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修GH内での勉強会を行うことにより職員全体のスキルアップを促している。また、新人職員に対してマンツーマンでの指導の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などの交流や意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中での不安や要望などに耳を傾けながらコミュニケーションの場を多くもてるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族等が困っていることや要望等をお聞きして出来る限り解決できるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況に合わせて他のサービスも視野に入れつつ相談対応を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が積極的に家事をされたり裁縫や家事の味付けなどを教えていただいたりとお互いに関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	窓越しの面会から時間予約等により対面での面会ができるようになり職員も会話に入りながら共に本人を支えていけるように情報交換をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況を見極めながら制限の緩和ができ馴染みの人との関係ができるように支援していく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上でレクリエーション等の場を通じて利用者同士が関わり合い支え合えるような関係を構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了時には今後も困りごとや不安なことがあればいつでも相談に応じ支援することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向について把握し一人ひとりの思いや暮らし方の希望や本人の趣向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や家族からの情報のもと日常生活で把握し本人の活力を生みだせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し毎日のバイタルチェックにて体調の変化等の早期発見に努めている。また、有する力や強みをみつけ日々の生活の場面場面で発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録からの情報や毎月の会議等のカンファレンスで心身の状態を把握し本人家族の意向を確認して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の様子を個別記録に記入し気づいた点については申し送りや業務日誌等を活用し職員間で情報共有を行い見直しやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの展開が難しい状況ではあるが利用者の方の希望に応じた柔軟な対応の検討を行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や地域の包括支援センター、地域の警察等との交流を持ちお互いの協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院がかかりつけ医となっているため月に2回の往診と緊急時にも対応できている。また、家族希望の外部受診も必要に応じて行える体制である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化には常に気を配り特変や急変時には速やかに報告し指示を受けお互いが対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医院関係者と常に情報交換を行うと共に面会にて本人の様子を確認し退院に向けての相談を受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や急変時の対応について意思確認し十分な説明を行い理解及び納得をして頂いている。また、訪問時や電話にて適宜状態の報告を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急連絡や夜間帯の医師看護師との連絡はマニュアルを作成し目につく所に掲示し周知徹底を図ると共に常に確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会開催の防火訓練に参加し地域のかたとの交流を行い車イスの操作方法や使用上の注意事項等の説明を行う。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに寄り添い人生の先輩として失礼のない声かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の生活スペースで生活していただけるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって休息したい日もあるので本人の希望にそったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴時の着替えの洋服等はどのようなものを着たいかなど本人と話あいながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後などお盆を拭いてもらったりおやつ作りの準備や朝食の煮物の味付け等教えていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量のトータルを記入し飲水量が少ない際は引き継ぎの時に申し送りを行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者本人がケアした後は職員が磨き残しや口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックすることで個々の生活リズムパターンを把握し誘導している。また、排泄動作の際は声かけを行いご自身で出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形状を確認し水分摂取量の調整を心がけている。また、食事の前に体操を行うことにより便秘予防等に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は利用者様が希望される日に実施し寒い日は脱衣所を暖めたり音楽をかけてリラックスして入浴を楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きて頂き昼夜逆転にならないように対応している。希望される際は臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の保管や受診時の医師による指示を申し送りノートやケース記録し病状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすることを把握し机上で行うレクリエーションやプリントに取り組んだりまた洗濯物を干したりたむことで生活リハビリも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態等で遠方への外出は控えているも近場へ車での外出季節ごとに外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が使うことはなく職員が管理を行うも必要な場合は本人、家族の確認のうえお金の使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族等と電話でお話していただいたり年賀状のやりとりや作成など支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の花を飾る等癒しになるよう工夫し、また季節を感じられる掲示物を作成掲示やしている。廊下やホールには椅子を多く配置することでいつでも休んで座れるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人が隣りになるように座る位置を決めたり定期的に席替えを行う等し利用者同士がコミュニケーションが取りやすい思い思いに過ごしてもらえるような工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で飾ってあった家族写真や使いなれた家具や馴染みの物、時計や置物を揃えることで自宅に近い居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを使用することで自力にて起き上がりが行えるなど自立に向けた生活が送れるように配慮している。また、車イスでも自由に行き来できるようにバリアフリーに配慮して利用者一人ひとりの能力を活かせるようにしている。		